

気象庁から津波注意報が出されたら、すぐに海岸から離れてください。また、津波警報大津波警報が出されたら、高台へ避難してください。

東日本大震災では、11日の15時30分に高知沿岸部に津波警報が出され、沿岸地域(1万人)に避難指示を発令し、市

津波情報に聞き耳を!

大きな揺れを感じたときは、まず、建物の倒壊から身を守り、揺れがおさまったら、すぐに沿岸部からなるだけ遠くに離れ、高台に逃げてください。

揺れたら津波を警戒!

災害の情報や避難勧告、避難指示は、市内に設置された防災行政無線やサイレン、広報車で周知することとなりますが、南海地震発生時には市役所が機能しない可能性も十分考えられます。

確認しよう。避難の時と持ち出す物

避難

日頃から確認を!

非常時の持ち出し品の中には、「なければ困る物」を集めます。特別な物を用意するのではなく、普段生活の中に組み込み、なるべく安価で、平時に更新できる物を集めるのがコツです。

市内の沿岸部は、自主防災組織率が100%で、地域ぐるみでの地震津波対策を行っています。また、自主防災組織を結成されていない地域は、防災対策課職員が説明会を開催するよう計画をしていますので、ご連絡ください。

香南市消防本部

3月14日、全国各地から派遣される緊急消防援助隊の一員として、市消防本部の5人が岩手県大船渡市に向け出発しました。



県内9消防本部の隊員でつくる緊急消防援助隊は、救助、救急、後方支援など12部隊で構成。14日に出発し、待機時間を合わせて38時間後の16日午後3時、大船渡市に到着しました。同市は入り組んだ湾を抱え、綾里地区では最大23mの大津波が襲いました。援助隊は16〜19日、高校のグラウンドで野営をしながら、大船渡港に近い新田地区で被災者の捜索や救助活動に当たりました。

21日に約1週間の活動から無事、帰ってきた隊員らの表情は厳しく「想像を絶する光景だった」と振

岩手県大船渡市へ

り返り津波の猛威を痛感。日常では考えられない凄惨な状況にさまざまな思いが交錯したということでした。

被災地での活動は、雪が積もり、路面が凍結する中、大量のがれきを重機で少しずつ崩し、埋もれている人を捜索しました。19日には、何十本もの木が突き刺さるように流入し、車やトラックが転がる港近くの会社の冷凍倉庫を捜索。屋外で木が3mの高さに折り重なったところで、50歳代の男性が倒れているのを発見しましたが、すでに亡くなっていったとのことでした。

「1人でも多くの方を家族の元」への思いで向かった市消防本部の久保雅裕消防士長は「被災者から感謝され、反対に温かさで力強さをもたらした。だから、なおさら1人でも多く捜し出したいと思った。見つけられず、歯がゆい」と悔しさを隠せませんでした。

陸上自衛隊高知駐屯地

宮城県雄勝町へ

3月15日、香我美町に駐屯する第50普通科連隊と第14施設中隊の隊員約460人が、不明者の捜索や人命救助活動、炊き出しや食料輸送など被災者の生活支援に向かいました。

石田和成連隊長は「恐怖にさいなまれていた被災者を一人でも多く救えるよう、身をこめて活動に当たるように」と訓示。隊員たちは、装甲車、トラックなど、120台で高知駐屯地を出発し、18日の夕方、宮城県牡鹿郡雄勝町に到着しました。



同町は大津波に襲われ、町全体が壊滅状態。隊員たちは総合運動公園を拠点に、津波で浸水している地域を渡河ボートやゴムボートで被災者の捜索活動を行っています。また、水や給食の運搬、テントの設営等の生活支援など、活動は今もなお続いています。

備えて安心! 心強い「非常持ち出し袋」

「非常持ち出し品」は、災害発生時にすぐ持ち出すべき「1次持出品」と、その後の数日間を自活するために必要な「2次持出品」に分類できます。全てのライフラインが機能しないことを想定して、準備します。

賞味期限のある水や食料、使用期限のある電池などは、定期的に中身を交換しましょう。また、玄関にはバール、寝室には靴(スリッパ)を備えていつでも家屋から脱出できる準備も必要です。



1次持出品

- ①水(目安は1人1日3ℓ)
- ②懐中電灯③非常食品④緊急医薬品・常備薬⑤携帯電話⑥携帯ラジオ⑦財布⑧貴重品⑨通帳・印鑑など

2次持出品

- ①マッチ・ライター
- ②トイレトペーパー・ウェットティッシュ③生理用品
- ④洗面具
- ⑤ビニール袋
- ⑥ラップ
- ⑦コンロ
- ⑧新聞紙
- ⑨予備電池など

今だから、できることを行動に!

最悪を想定すれば、最善の防災対策が見えてきます。市としても、国や県の発表する今後の情報などをお知らせするとともに、消防本部や各消防団、自衛隊高知駐屯地、各地域の自主防災組織などと連携を図り、できるかぎりの対策を講じていきたいと思っています。

ここでお伝えした情報だけでは不十分だと思えますが、新聞などの情報と併せて、次期南海地震への「覚悟と準備」をしていただければ幸いです。

家族の安否確認を!

171

災害用伝言ダイヤル

災害時には相手先への電話がつながりにくい状態が続くため、災害用伝言ダイヤルで安否確認を行います。

※固定電話でも携帯電話でも利用可能。伝言を約30秒吹き込める。利用期限は2日間

被災地から伝言を登録

- 1 局番なしの171へダイヤル
- 2 **1**を入力して自分の電話番号を市外番号から入力
- 3 伝言を録音

伝言を聞く

- 1 局番なしの171へダイヤル
- 2 **2**を入力して相手の電話番号を市外番号から入力
- 3 録音が再生される

※伝言された内容は、被災地やそれ以外の地域から聞くことができます

